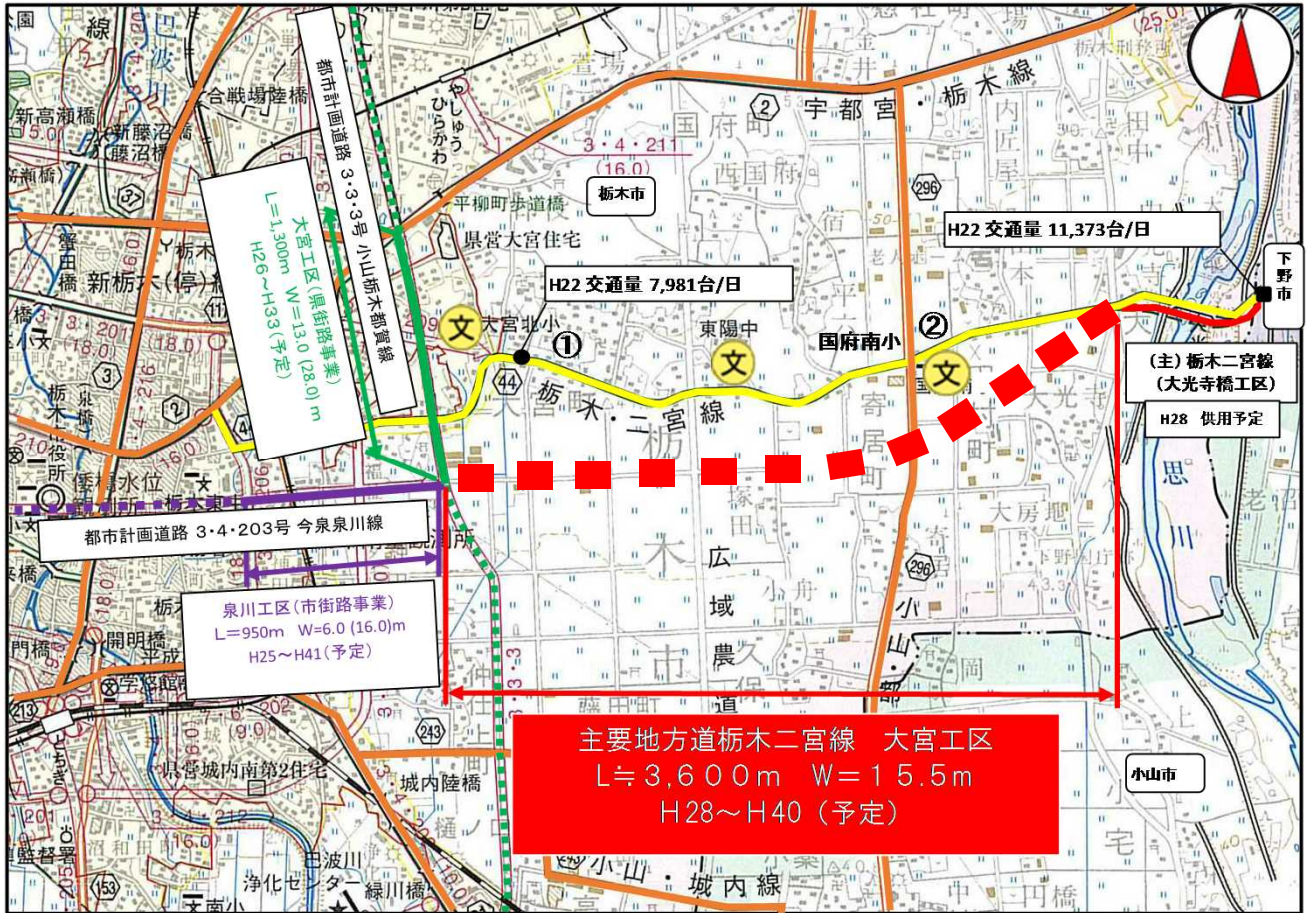


事業の概要			
事業名	主要地方道 <small>とちぎのみや</small> 栃木二宮線 <small>おおみや</small> 大宮工区整備事業		事業主体： 栃木県
事業箇所	<small>おおみや</small> 大宮工区 <small>とちぎ おおみやまち</small> 栃木市大宮町		
事業の目的、事業発案の経緯・背景			
<p>本路線は、栃木市と真岡市を東西に結び、地域間の生産物流及び通勤通学を支え、道路ネットワークを形成する重要な幹線道路である。</p> <p>しかしながら、本事業区間は、大型車を含めた通過交通が非常に多いが、幅員狭小で屈曲し、歩道の未整備区間も多いため、沿線の小・中学校児童生徒が危険にさらされており、安全で円滑な交通に支障をきたしている。</p> <p>このため、本事業によるバイパスを基本とした道路整備により、都市間を結ぶ道路ネットワークの強化と安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>また、県議会県土整備委員会においても地元栃木市より早急な整備が要望されている。</p>			
事業内容			
【計画の基本スタンス】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現道は道路幅員が狭く屈曲し、また沿線に人家が多いため現道拡幅が困難であることから、延長3,600mのバイパスを基本とした整備計画とする。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総延長：約3,600m</li> <li>・標準幅員：15.5m(車道6.5m、歩道3.5m×2、路肩1.0m×2)(3種2級)</li> <li>・車線数：2車線</li> <li>・計画交通量：8,800台/日(バイパス：平成42年) 2,900台/日(現道：同上)</li> </ul>			
事業予定期間	平成28年度～平成40年度 用地調査：平成28年度～ 用地取得：平成28年度～平成37年度 工事実施：平成30年度～平成40年度	事業見込額及び内訳	総事業費 約27億円 事業費内訳 測量設計費：約1億円 用地補償費：約10億円 工事費：約16億円 財源内訳 国費：55% 県費：45%
事業概要図			
別紙記載			
県計画への位置付け			
<p>本路線は、「栃木県広域道路網マスタープラン」において、広域道路に位置付けられている。また、「人にやさしい県土60分構想」の基本施策である「広域道路網の充実強化」として、市町の拠点間の連携を強化するとともに、地域の生活を支える道路づくりに位置づけられる。</p>			
他計画・他事業との関連			
<p>栃木市都市交通マスタープラン(平成25年3月)において、市全体の骨格を形成する道路として位置付けられている。</p>			

事業の評価		
評価の視点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現道は屈曲・狭隘で交通に支障があるため、交通の円滑化を図る必要がある。</li> <li>・現道の大型車を含む通過交通を低減させ、自転車歩行者の安全を確保する必要がある。</li> </ul> <p>交通量(実測12時間) 7,756台 うち大型車1,057台(混入率13.6%) 死傷事故発生件数 H10～H24：6件</p>
	2. 事業の適時性(今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在施工中の大光寺橋工区が平成28年春に供用の見通しであるうえ、周辺にて事業中である都市計画道路3・3・3号小山栃木都賀線(大宮工区)と都市計画道路3・4・203号今泉泉川線(泉川工区)がそれぞれ平成33年度、平成41年に完了予定であり、一体的な整備を行い、整備効果を上げる必要がある。</li> </ul>
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現道が人家連担地区に位置し、拡幅整備が困難かつ多額の費用を要するため、バイパスを基本として整備する。</li> <li>・バイパスルートは土地利用の状況、施工性、経済性等を総合的に勘案し決定したものである。</li> </ul>
	4. 事業手法の適切性(県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道栃木二宮線のバイパスとして整備を行うものであり、道路管理者として、県が事業を実施する。</li> </ul>
	5. 事業により予想される効果及び影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済効果               <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比(B/C) 3.2</li> <li>・総便益(B) 67.9億円</li> <li>※供用後50年間の効果を金銭に換算し現在価値化したもので、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少、沿道環境向上効果の合計である。</li> <li>・総費用(C) 21.2億円</li> <li>※建設費と供用後50年間の維持管理費をそれぞれ現在価値化して加算したもの。『事業の概要』の「事業見込額及び内訳」とは異なる。</li> </ul> </li> <li>○大型車等通過交通の低減による、沿線の交通安全の確保</li> <li>○災害時等の救援活動や物資輸送に資する道路ネットワーク強化</li> </ul>
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生材の利用や、盛土における公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。</li> </ul>
事業の対応方針(案)		本事業については、平成28年度より着手する。

# 事業概要図



## 【現道の状況】



## 【標準横断面図】

